



8月のコラム ～ 分身ロボットっていいね！～

残暑お見舞い申し上げます。この時期「暑いですね～」は、日本中の合言葉ですね。以前は、よく夏バテということばを耳にした気がするのですが、最近は「熱中症に注意」ですね。時代と共にこういった言葉も変わってくるのだなあと思います。

さて、働き方改革という言葉の知名度も次第に上がり、それに合わせて、労働時間の短縮や生産性の向上をサポートをする商品も次々現れているようです。

先日、在宅勤務などのテレワークで使用されている「分身ロボット OriHime」がテレビで紹介されていました。要は、テレビ会議に使うパソコンのカメラ・マイク・スピーカー部分が人型のロボットに置き換わるということの様ですが、人型というだけでこんなにも印象が変わるのかと思いました。

首が回るので、パソコンのようにモニターが向いている方向だけでなく、職場の様子が見渡せます。また、うなづく、手を振る、ハグするなどの動きさせることもできるのです。メールの顔文字のような効果でしょうか、動作が伴うと感情が伝わりやすくなります。使っている人が、「〇〇さん、これお願いします」「〇〇さん、ありがとう」とあたかも目の前にその人がいるように、その小さなロボットに話かけているのが印象的でした。喜怒哀楽など様々な表情に見える「能面」を参考にデザインされているため、見る側に多様な表情を想起させ、じわじわとそのロボット人形が本人に見えてくるそうです。



調べてみると開発者は、子どもの頃、病気のため自宅療養で長く学校に行けず、孤独な思いをしたそうです。もし、休んでいる間、学校の自分の机の上にこの分身ロボットがあつて、友達や先生の顔が見回せて、友達の会話が聞こえて、話かけてくれて・・・それならきっと寂しくなかったでしょうね。「人工知能」でなく、「親しい人同士がコミュニケーションをとることであつて欲しい」という願いを込めて作られたから、温かいのですね。

働き方改革も、無駄を省くという一面だけに目を向けると息苦しいものになってきます。人と人がつながっている温かさ、ちょっとした遊び心や楽しさが、その人の持つ本来の能力を引き出してくれるように思います。

2017年8月 水田かほる

